

第2回 横浜市都筑区地区センター及び横浜市つづき緑寿荘指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和3年8月26日(木) 9時00分～17時00分
開催場所	都筑区役所5階 第1会議室
出席者	名和田委員長(法政大学法学部教授) 秋山委員(税理士) 久保委員(都筑区連合町内会自治会地域活性部会) 桑原委員(都筑区老人クラブ連合会会長) 竹迫委員(参画はぐくみ工房代表)
欠席者	なし
開催形態	一部非公開(傍聴者 中川西地区センター3名・都筑センター2名・仲町台地区センター2名)
議題	1 面接審査 2 採点審査(指定候補者及び次点候補者の決定)
決定事項	第4期指定管理者の候補者を次のとおり選定した。 1 中川西地区センター 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。 次点候補者は、特定非営利活動法人建物管理ネットワークとする。 2 都筑センター(都筑地区センター及びつづき緑寿荘) 指定候補者は、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会とする。 3 仲町台地区センター 指定候補者は、特定非営利活動法人つづき区民交流協会とする。
議事等	確認事項 1 第2回委員会における審議施設及び申請状況について 第2回委員会では、中川西地区センターの指定候補者及び次点候補者を選定する。都筑センター及び仲町台地区センターの指定候補者を選定することを確認した。 中川西地区センターは2団体、都筑センター及び仲町台地区センターは1団体の応募があり、全団体が欠格事項には該当しないことを事務局から報告した。 2 面接審査の進行について 応募団体による15分間のプレゼンテーションの後、15分間の質疑応答を行うことを確認した。 3 議題の進行について 議題1(面接審査)及び議題2(採点審査、指定候補者及び次点候補者の決定)は、施設ごとに審議するものとし、審議の順番は、中川西地区センター、都筑センター、仲町台地区センターとする。

中川西地区センター

1 面接審査【特定非営利活動法人建物管理ネットワーク】

(1) プレゼンテーション（応募団体から説明）

(2) 質疑応答

(委員) コーディネーターのイメージとコーディネーターを育成のための研修についてどのように考えているかを伺いたい。

(回答) コーディネーターは業務をジョイントしてうまく回していく位置付けと外部の団体とのジョイントの2つある。第一義的には中の業務を円滑にする方が分かりやすく今までは副館長が中の業務を担っていたが、それを発展させた形でノウハウを地域にジョイントできる位置づけを考えている。事前に能力を高めるためには市の研修も活用したい。市民協働センターの機能を積極的に使いながらやっていきたい。

(委員) 地域連携については他区で実績があるようだが、都筑区でどのようなやり方を考えているのか。

(回答) 地区社会福祉協議会によるお楽しみ会食会では、地区センターの調理室を利用して高齢者に食事していただくものだが、施設を貸すだけのケースがある。参加者を募集するなど積極的に地区センターが関与して、サポートしていきたい。

(委員) 建物管理に予算が多めについているようだがどのような予定なのか。新しい中川西地区センターでは何をやりたいのか。新しいコマの設定で新型コロナの対応もあり、駐車場の制約もある中で、どのようにやっていくのか伺いたい。

(回答) 支出における重要なファクターは人件費、修繕費、ニーズ対応費であると考えており、建物の長寿命化に向けてしっかり予算確保していく方針である。法人の強みとして持っているノウハウを、無償の自主事業という形で実施していきたい。日・祝日の開館時間の延長は、コマを増やすのではなく最終のコマを1時間延ばす形である。利用者へのメリットを打ち出していきたい。

(委員) 他区では運営の実績があるようだが、都筑区でやりたいことは何か。

(回答) 都筑区や中川地区の特徴は子育て世帯が多く、高齢者も増えていると考えている。他区でも似た傾向の地域へサービス提供ができており、中川西地区センターでも今まで積み上げてきたものを活かしていきたい。地区センターは自治活動を支援することから、地域との関わりを増やし一歩踏み込んでいきたい。例えば、地区センター会議に社会福祉協議会の人に入ってもらうなど相談しながら検討していきたい。

(委員) 地域福祉保健計画地区別計画には子育て支援があるが、自主事業を見ると重点的には見受けられない。自主事業の抱負と地域コーディネーターのイメージを聞きたい。

(回答) 子育て支援は、わんぱくホリデーなど子ども対象とした自主事業を検討している。実績のあるものに積み上げていきたい。自主事業、団体、都筑区子ども家庭支援課がサポートするものをマトリックスで整理して、総合力を高めて子育てのまちづくりを進めていきたい。コーディネートのメニューを紐解き始めている。本部でも費用や時間をサポートする体制を組んでいる。

2 面接審査【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

(1) プレゼンテーション (応募団体から説明)

(2) 質疑応答

(委員) 誰がどのように地域課題と決めているのか伺いたい。新規の地域コーディネーターは何名で、どういう研修をしていくのか。

(回答) 中川活性化プロジェクト等にて地域の方と課題を共有しており、地区センターとしてできることはないかを考えている。今は災害も多く課題として捉えているので、防災に力を入れている。コロナ禍においてリモートコミュニケーションも重要な課題なので取り組んでいる。それぞれ職員が考えを出し合いながら、地域課題を検討している。

地域コーディネーターは常勤職員が3地区センター分を担当する計画である。地域福祉保健計画地区別計画の策定に関わる地域懇談会に出席するなどして、顔の見える関係づくりを進めていく。地域とのつながりをすでに持っている現事務局長がコーディネート職に就き、地域とのつながりづくりを強化していく予定である。

(委員) 中川西地区はつながりが強いを感じるが他の地区と比較してどうか。

(回答) NPO 法人ぐるっと緑道などの団体があり、地区センターとしても積極的に地域に出ている。北山田、仲町台とも立地が違う。北山田地区センターは東山田地域ケアプラザと連携している。地区センターが地域の中に溶け込んで、地域コーディネーターが引っ張っていく計画を考えている。

(委員) 料理室の改修についてどのような経緯でそういう発想になったのか伺いたい。第三者評価制度で指摘されていた利用者の多い小中学生の個別のニーズをどうやって汲み取っていくのかあわせて伺いたい。

(回答) 地区センターの料理室は、学校の理科室のように個別の机が6つほど配置しており、平成に建てられた他の地区センターでも同じような形態の料理室が残っている。子どもや子育て世帯が多くいる中で、料理台を端に持っていく、真ん中のスペースを自由に利用することで稼働率を上げられると考えている。

小中学生の個別のニーズのくみ上げについては、子ども向けの事業でアンケートを取り、今後の要望等も聞くようにしている。例えば、どんな料理をつくりたいか、どんなスポーツをしたいかなど具体的に調査している。

(委員) 高齢者向けの施策はあまり見受けられないように感じるが、どのように考えているのか伺いたい。

(回答) 健康体操を行っているが、健康促進だけでなく、定期的に訪れることやコミュニケーションを取ることが重要である。他の事業ではやらないが、名前で呼べるよう名札を付ける工夫もしている。

まちの寺子屋という講座では、地域ボランティアが中心となって得意なものを子どもたちに体験してもらい、高齢者と子どもたちの交流を生み出している。他にもスマホ講座を年4回開催し、インターネットを使った交流事業も進めていきたい。

健康体操では最近来ない人も見受けられるものの個人情報の関係で他の機関につなぐ難しさがある。他の機関と連携するのも地域コーディネーターの役割だと思っている。

3 指定候補者及び次点候補者の選定

特定非営利活動法人つづき区民交流協会を指定候補者とする。(647/825点)

特定非営利活動法人建物管理ネットワークを次点候補者とする。(533/825点)

4 講評(面接順)

【特定非営利活動法人建物管理ネットワーク】

- ・自らが新しい地区センターを作っていくという気概は評価したい。地区センター側から地域に出ていくアウトリーチ型の自主事業といった積極的な姿勢は好印象だった。
- ・他区での管理運営実績はあるものの、都筑区や中川地区における関係団体や課題の把握や分析が十分でないと思われた。そのため、どういう団体と連携していくのかといった具体的なプランが伝わらず、利用促進策やコーディネーターのイメージも湧きにくかった。地域の分析を行った上で都筑区に根差した活動を検討してほしい。

【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

- ・地域課題を丁寧に把握し、地域と協働して取り組んできた事例や安定した運営実績を高く評価したい。料理室の改修プランは画期的なアイデアで、コストに対する根拠も提案されていた。また、団体本部に新たに地域コーディネーターを配置するという提案も今後の運営に期待が持てるものであった。
- ・地域コーディネーターには、個人の資質だけでなく客観的なスキルや専門性を身に付ける必要がある。特定の個人に頼らず組織として次世代の地域コーディネーターを育成して欲しい。あわせて、各地区センターでサブコーディネーターのような役割を担うことも検討してほしい。

都筑センター（都筑地区センター及びつづき緑寿荘）

1 面接審査【社会福祉法人横浜市社会福祉協議会】

(1) プレゼンテーション（応募団体から説明）

(2) 質疑応答

(委員) 若い世代に向けてインスタグラムの発信などを手掛けるようであるが、若い人たちが参加したくなるような事業はどのように考えているのか。

(回答) 中高生は学習室や体育室の個人利用ができるようになっているので、みんなで集まり楽しめることを発信していきたい。また、個人利用から団体利用にもつなげていきたい。若い子育て世代には看護師に相談できるメニューも用意している。さらに、インスタグラムでは事業で実施したことも発信していく。

(委員) 都筑区全体でなく都筑地区センターエリアの地域特性を伺いたい。あわせて、地域ニーズから事業を企画する考え方も伺いたい。

(回答) 市内の老人福祉センターの中でも駅から近く集まりやすく、来ていただいた方が楽しめる講座を考えている。センター委員会で地域と連携を図り、ふれあいの丘地区の町内会の会議等に参加している。ご意見箱で意見を承り、地域からのご要望にもお応えしていく。

ふれあいの丘地区は高齢者がいつまでも元気で暮らせる環境を目指しており、区の特徴がそのまま縮図になっていると考えている。まちづくり協議会等に参加するなどしており、地域の期待に応えられる施設を目指している。

(委員) 来所することが難しい人たちへのアプローチはどのように考えているのか。地区センター側から出向いていき、外でグループ化するなどの考えはあるのか。

(回答) 健康ウォーキングや川和地区の子ども会や地域ケアプラザ、都筑多文化・青少年交流プラザとの連携などが施設外で取り組んだ事例であり、今年度も引き続き実施しようと考えている。また、コロナ禍前は商店街と一緒に、子どもたち向けにイベントを行った。コロナ禍からの利用再開に向けた支援も重要であると考えている。来所が難しい方には他の地区センターやネットワークを使って連携を進めていきたい。

(委員) 隣にあるあゆみ荘との関係はどうなっているのか。

(回答) あゆみ荘は同じ法人が指定管理をしており、障害に対する理解が深まるような取組を一緒に進めている。敷地内にあるあゆみ荘と都筑プールとの館長会議もあり、そこで連携を深めている。

(委員) 外でイベントを実施する際にボランティアには来ていただいているのか。

(回答) コロナ禍においてはお近くに住む方々をお願いしたいと考えている。なるべく地域の人たちに来ていただけるよう調整している。

2 指定候補者の選定

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会を指定候補者とする。(1173/1700 点)

3 講評

【社会福祉法人横浜市社会福祉協議会】

- ・団体の専門性を活かした安定した管理運営の実績があり、自主事業においても評価できる取組があったことから指定管理者として継続しても問題ないと思われる。
- ・SNS を用いた施設や事業の情報発信を促進する提案があったが、企画の内容をもっと具体的にしてほしかった。また、若年層の利用促進に向けた広報の提案があったが、単なる利用者としてだけでなく将来的に地域の担い手になるような人材育成ができるとなおよいと思われる。
- ・つづき緑寿荘においては既存の利用者以外の高齢者へ働きかけるアプローチを検討し、待ちの姿勢ではなく施設から地域へ積極的に仕掛ける姿勢を持つことを期待したい。
- ・地域の分析が十分であると言い難く、分析を深めるとともにニーズを反映させる仕組みを整備してほしい。

仲町台地区センター

1 面接審査【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】

- (1) プレゼンテーション (応募団体から説明)
- (2) 質疑応答

(委員) 地域参画を希望する方をどのように発見して、取り込んでいるのか伺いたい。また新設の地域コーディネーターの提案はあったが、仲町台地区センターにおけるサブコーディネーターの設置や今後の人材育成の考え方についても伺いたい。

(回答) 例えば、メモクリップづくりの講座は近隣企業から提案があった。自主事業の趣旨に沿ったものであれば、団体からのものであっても実施する場合もある。逆に、こちらから団体に働きかけて企画するものもある。

地域コーディネーターは各地区の地域懇談会等に出席すると共に、館のスタッフと地域のつながりも行い、核となる人を育てる予定である。ただ地域コーディネーターは地域ケアプラザのケースと異なり、協会の中から独自に人件費を捻出するものであるとご理解いただきたい。これからは地域や団体と協働しながら進めていきたい。

(委員) 団体本部があるが、地区センターごとに収支予算書を作成しているので、収入や支出に関しての裁量は地区センターに認めているという理解でいいか。令和2年度収支報告書によると事業費の支出が減っているが、自主事業がコロナ禍で実施できなかったことによるものということでもいいか。修繕費

を多額に支出しているが通常運営や環境への配慮、利用者ニーズに応えるものにかかったという理解でいいか。

(回答) 自主事業等は地区センター自ら企画や実施しているものであり、地区センターの裁量権は結構ある。自主事業費が事業費の支出であるが、減の理由はご質問の通りコロナ禍で実施できなかったことによるものである。修繕費については休館していたことと20年以上経っていることもあり、不具合があるところは集中的に修繕しており、冷温水機の水漏れ工事や体育室のLED化などを行った。

(委員) まちづくり講座とは具体的にどんなものか。外国人に向けた講座の提案があったが具体的にどのようなものを考えているのか。事後グループ化が重要視されているが、自主事業の中の具体的にどれなのかを教えてほしい。

(回答) まちづくり講座は地域を知ってもらうことから始めており「仲町台を探検しよう」というイベント名で商店街や農家などと連携して企画している。

外国人に向けた講座は、外国人向けというより外国人の方に講師になってもらい地域の方に自分の文化を発信してもらうというもので、料理を通して異文化を楽しんでもらっている。

事後グループ化の例としては、読書カフェやメンズライフ講座などがある。メンズライフ講座は最初男性セカンドライフ講座があり、そこでグループを組んでもらった。他にも麻雀入門講座からグループ化したケースもあった。

(委員) 自主事業は他からの売り込みが多いのか。

(回答) 年度当初に企画したもの以外で他から提案があった場合、余裕があるかどうかや地域のみなさんにとってよいものであるかを検討した上で判断している。

(委員) 子どもや高齢者の見守りはどのように考えているのか。

(回答) 子どもの見守りは中高生が中心である。ただ地区センターでは外に出てられるという状態の中での支援と考えている。地区センターは相談機関ではないが、子どもと館で信頼関係を築きながら、子どもにとっていい選択肢を考えていきたい。高齢者向けとしては健康体操を実施しているが、地区センターなので民生委員による見守りとは性質上異なるものである。

(委員) 利用者のデータはどうなっているか。

(回答) 利用者層別でいうと、65歳未満の女性が一番多い。次に65歳以上の女性が高く、その次に小学生となっている。

2 指定候補者の選定

特定非営利活動法人つづき区民交流協会を指定候補者とする。(622/825点)

	<p>3 講評（面接順）</p> <p>【特定非営利活動法人つづき区民交流協会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年の安定した管理運営実績があり、プレゼンテーションの内容にも説得力があり、今後も指定管理者として継続して任せて問題ないと考えられる。 ・地域特性の分析がよくなされており、分析を踏まえた自主事業の企画や地域連携も積極的だった点は高く評価できる。地域へのアンテナの張り方が以前からよく今後もさらに磨きをかけてほしい。 ・第三者評価制度ではスタッフ対応や清潔さに比べ、講座に対する満足度が相対的に低いとの指摘もあったので分析を深めて、今後の改善に活かしてほしい。またセンター委員会では学校関係者をメンバーにするなど構成員を再度検討してほしい。
<p>そ の 他</p>	<p>第3回選定委員会は、8月27日（金）開催とし、北山田地区センター、大熊スポーツ会館、東山田スポーツ会館の指定候補者を選定する。</p>
<p>資 料</p>	<p>（資料1）第2回選定委員会タイムスケジュール （資料2）評価・採点方法について （資料3）横浜市都筑区地区センター及び横浜市つづき緑寿荘指定管理者公募に際しての「団体の資質・実績」の評価について （資料4）採点審査について （資料5）評点表</p>